にじいろ

札幌市立元町小学校　きこえの教室

令和８年度１２月号
令和８年１１月９日

札幌でも初雪が降り、本格的な冬が近づいてきました。子どもたちは雪遊びやスキーなど、冬ならではの活動を楽しみにしていることでしょう。風邪やインフルエンザに気を付けて、元気に過ごしましょう。



月	火	水	木	金
	1	2	3	4
7	8	9	10	11
14	15	16	17	18
21	22	23 ケース会議 （指導休み）	24 ケース会議 （指導休み）	25 2学期終業式 （指導休み）
28	29	30	31	

※お子さんが在籍している学級が学級閉鎖になった場合は、通級もお休みになります。担当までご連絡お願いします。
※12月23日（水）と24日（木）はケース会議のため、25日（金）は終業式のため、指導はありません。
※1月15日（金）は始業式のため、18日（月）から22日（金）まではケース会議のため、指導はありません。
3学期の指導開始日は1月25日（月）です。



交通費（公共交通機関）の支給について

市営地下鉄等の公共交通機関を利用して通級している場合、申請することで札幌市教育委員会より小学生のお子さん分の交通費が支給されます。申請書類の準備ができましたら関係書類をお渡ししますので、支給を希望される保護者の方は担当者までお知らせください。なお、自家用車・自転車・徒歩など公共交通機関以外で通級されている場合は支給の対象外となり申請できませんのでご了承ください。

担任の先生方へ

こんにちは、きこえの教室です。今月も、聞こえにくさへの配慮についてお知らせします。参考にしていただければ幸いです。

★「難聴をもつ小・中・高校生の学校生活で大切なこと　難聴児への関わり方がよく分かる２０のヒント」という、岡山大学耳鼻咽喉科の先生方が作成された資料を裏面に載せました。
担任している聞こえにくいお子さんのことを思い浮かべながら読んでいただけるとありがたいです。
「簡略版」を載せましたが、14ページ仕立てのパンフレットもあります。「岡山大学　難聴パンフレット」で検索できますので、ぜひそちらもご覧ください。

※　裏面をご覧ください

先生編

難聴をもつ小・中・高校生の学校生活で大切なこと

1枚で理解できる！
簡略版

難聴児への関わり方がよく分かる20のヒント

担任、担当する先生方に知っていただきたい難聴児の聞こえの状態、必要な配慮をまとめています。
該当する箇所に✓を入れてご使用ください。

https://doi.org/10.18926/63370

難聴の程度と聞こえ方

程度	聞こえ方
□ 軽度 25-40dB	小さな声や騒音下での会話の聞き取りにくさや聞き間違いが多い。テレビの音を大きくする。
□中等度 40-70dB	普通の大きさの声の会話での聞き取りにくさや聞き間違いが多くなる。特に雑音下では聞き取りが難しい。
□ 高度 70-90dB	非常に大きい声か補聴器を装用するかでないと聞き取れない。補聴器がないと向かい合っての会話でも難しい。
□ 重度 90dB以上	生活音や耳元での大声がほとんど聞こえない。人工内耳の適応である。読話（口の動きを見て言葉を読み取る）を併用していることが多い。

よく使われる補聴機器

補聴器:
マイクで拾った音を聴力に合わせて増幅して伝える。

人工内耳:
音を電気信号に変えて内耳に挿入した電極へと刺激を送る。補聴器で限界がある場合に適応となる。

補聴援助システム（Roger®等）:
マイク付き送信機を通した話者の話を、補聴器／人工内耳に取り付けた受信機へ直接送るシステム。
騒音下でも話者の音声が優先的に届く。

起こりやすい問題

◆ 聞き取り全般

- □ 音は聞こえていても、言葉としては完全には聞き取れない
- □ 雑音下、離れた場所や後方からの話が聞き取りにくい
- □ 校外学習、一斉指導、校内放送は聞き取りにくい
- □ 大きな声や音がうるさく聞こえる
- □ マスクをしていると聞き取りにくく、読話もできない

◆ 授業

- □ 授業内容が完全には聞き取れず、理解できていない
- □ 授業の流れについていけない
- □ 板書中の話や突然の質問が聞き取れない
- □ 発表が聞き取れず、先生と生徒のやり取りから脱落しやすい
- □ グループ学習で話し合いの内容が聞き取れない



◆ 教科学習

- □ 特定の教科では特に聞き取りが難しく、不利になる
- □ 学習の理解が不十分な状態が続くと、学力が低下しやすい

特に難しいこと

- 英語：特にリスニング、スピーチ
- 音楽：特に歌唱での音階、音程、リズム合わせ
- 体育：聞き取り全般（遠距離、補聴機器を外している）
- 国語：語彙力、構文理解、読解力　等
- 算数・数学：文章題の把握、抽象概念の理解

◆ 友人関係

- □ 聞こえていなくて無視をしたと受け取られることがある
- □ 聞き返しにくく、会話に入れない
- □ 何気ない会話や雑談についていけない
  - ノリが悪い、空気が読めない等誤解を受けやすい
  - 疎外感、孤独感を感じやすい
- □ 友人に難聴のことをどう伝えてよいのかわからない
- □ 難聴のことを友人に理解してもらえない、悩みを共有できない
- □ 仲間の輪に入れない、いじめを受ける



必要な配慮・対応

Point
1. 話し方の配慮
2. 環境調整
3. 視覚情報の併用
4. 本人の意向の確認
5. 多職種による支援

◆ 聞き取り全般

① 静かになってから話す
② 正面から話す
③ 口元を見せて話す
④ 言葉のリズムを崩さずゆっくり、はっきり話す
⑤ 注意を喚起してから話を始める
⑥ 遠くで話している内容は再度伝え直す

※ 外国語のリスニングで聞き取りやすいような話し方、環境調整を

◆ 授業

⑦ 視覚的な情報（板書、掲示、配布資料等）を使う
⑧ 聞き取りやすい座席の位置にする
⑨ 指名してから質問内容を伝える
⑩ 具体物、指さし、身振り、ジェスチャー、合図等を活用する
  - 特に距離が離れた場所や体育の時



⑪ 板書を終えて、正面に顔を向けてから話す
⑫ 他の子の発言を復唱して伝え直す
⑬ どの教科でも補聴援助システムを使えるよう教師間で情報共有する

◆ 教科学習

⑭ 聞き取りに限界があることを理解する
  - 発音や音程、リズムの取りにくさは仕方がないので、細かい指摘は控える

⑮ 苦手な教科、分野を理解し、必要なら個別対応での評価を
  - リスニングや歌唱のテストの免除、個別実施

⑯ 学習の遅れがあるならば、個別指導も検討する
  - 遅れが過大にならないうちに対策を取る
  - 言語聴覚士、聴覚特別支援学校教師とも連携した介入を





◆ 友人関係

⑰ クラスメイトへの情報提供
  - 難聴の程度や年齢、置かれている状況はそれぞれの児で異なるので、意向に沿った支援が必要

⑱ 理解してくれる人の存在は心理的問題の軽減に重要

⑲ 多くの立場からの支援が必要
  - 言語聴覚士、聴覚特別支援学校教師、耳鼻咽喉科医等専門家による指導、助言を受けることが望ましい
  - 必要に応じて小児科医、臨床心理士等への相談を

⑳ セルフアドボカシーのスキル育成
  - 配慮や支援を受けるために、自分の不便な点を周囲に伝えて理解してもらう練習をさせる